

Recording Colors 三色分解撮影の時代

色を記録する展

2022 12.12mon → 2023 3.10fri



色を記録するカラー写真やカラー映像は、何らかの形で三色分解が行われている。しかし仕組みは巧妙かつ微細で、我々が直接に触れて見ることはなかなかできない。現代のカラーフィルムのような高度な多層塗布技術に支えられた製品ができる以前にも、白黒のネガフィルムを使った三色分解撮影と一色ずつ重ねて染色するダイトランスファープロセスやテクニカラー映画のような天然色写真、天然色映画は存在していた。欧米の技術に比べてあまり知られていないが、日本にも独自の天然色プロセスが存在していた。本展示は、写真材料商 小西六本店(後の小西六写真工業株式会社、現在のコニカミノルタ株式会社)の製造部門、六櫻社の技師長でのちに本学教授となった江頭春樹の開発による「転写現像紙」を利用した天然色印画と、小西六写真工業取締役の毛利廣雄らが開発したコニカラー映画システムを紹介するものである。製作から80年余を経過しても、良好な色彩を保つ小西六の天然色印画法を知ることは、小西六と関わりの深い東京工芸大学の建学の精神への理解を深めるものであり、大学所蔵の豊富な写真資料を活用してこの展示を企画した。

本展ディレクター 矢島 仁(芸術学部映像学科准教授)

コニカラー映画システムの特徴

コニカラーはテクニカラーの模倣だと思われがちだが、模倣ではなくテクニカラーの欠点を克服した新しいシステムであるのに気付くだろう。撮影機の三色分解光学系はパイバック方式ではなく、三本のマスターレンズからの鮮鋭な色分解像が投影される仕組み。またプリントも色素転写ではなく発色現像方式を採用して鮮鋭度の向上を図っている。これらにより色彩のにじみを抑え、墨版なしの色素画像だけで鮮明な天然色を実現している。



KCC400型 コニカラー撮影機



転写現像紙と色素液等



江頭春樹



コニカラープリント



六櫻社式天然色写真



エンゼル魚

「さくら三色用フィルム」開発の道のり

東京工芸大学に残されていた膨大な量の三色分解ネガ、しかしあまりにも情報が欠けていた。やがて写真雑誌の掲載写真と保管の原版が照合できたり、軍人や皇室関係などの写真から撮影日の特定できるものもあり、主に昭和初期の撮影であることが確認できた。詳細に見ると分解ネガのフィルムの特徴と膜面方向の違いに気付いた。さらにいくつかの色分解ネガをカラー合成してみた結果、保管されていたのは三色分解撮影を手軽に行うための「さくら三色用フィルム」の開発にかかわるごく初期の撮影から、改良されて商品化した時点、そしてさらに改良が加わり完成の域に達したまでの全ての研究資料であるように思えてきた。江頭式とも称される六櫻社式天然色印画の進化の道筋を展示写真で確かめていただきたい。



「さくら三色用フィルム」によるトライバック撮影

モデル 明日待子

※教育的見地から著作権や肖像権について十分に留意しておりますが、許諾が取れていない場合もあります。問題がございましたら、色の国際科学芸術研究センター事務局(TEL:03-6300-5812)までご連絡ください。

cololab
gallery
カラボギャラリー

- 開館時間: 月曜日-金曜日 12:00-17:00 【入場無料】
- 休館日: 土曜日・日曜日・祝日(※臨時開館閉館あり。HPでご確認ください。)
- 会場: 東京工芸大学 厚木キャンパス 12号館 2階 カラボギャラリー 〒243-0297 神奈川県厚木市飯山南5-45-1 TEL:046-242-4111 <https://collab.t-kougei.ac.jp/gallery/>
- 主催: 東京工芸大学 色の国際科学芸術研究センター
- 協力: 株式会社堀内カラー、国立映画アーカイブ、コニカミノルタ株式会社、Sadatomo Kawamura Design、松竹株式会社、東映ラボテック株式会社、HIGURE17-15cas

新型コロナウイルス感染症対策のため現在事前予約制となっています。詳細および最新情報はHPでご確認ください。▶ <https://collab.t-kougei.ac.jp/gallery/>



小田急線「本厚木駅」からバス20分
厚木バスセンター 7番乗り場
「東京工芸大学」行き